

# 教育セッション K-1「プレアワード」

大学共同利用機関法人  
情報・システム研究機構  
野水昭彦

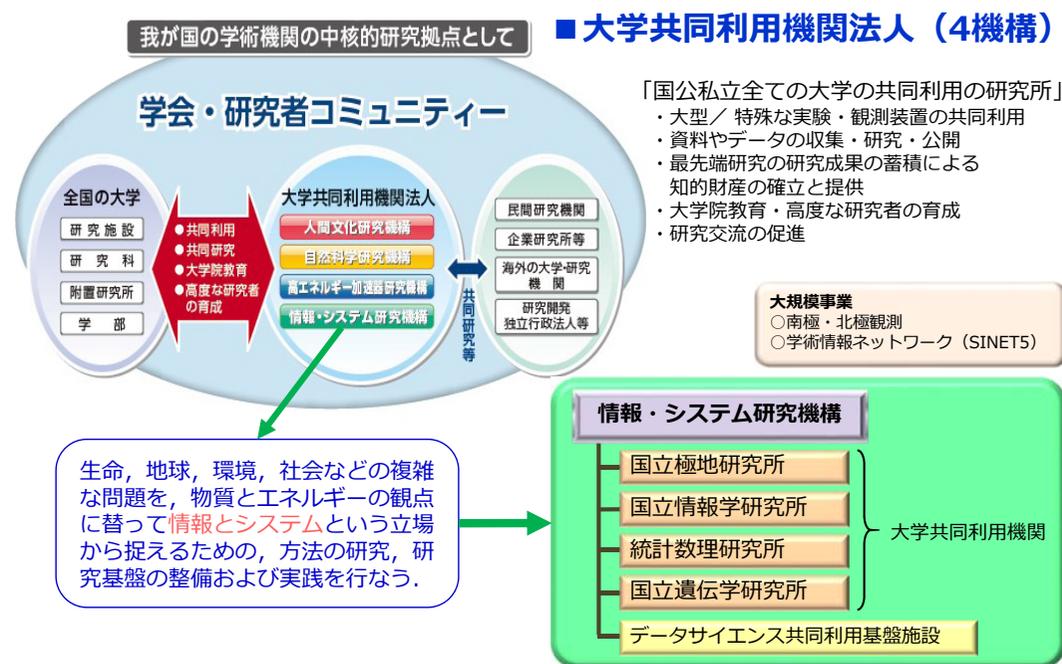
## 本日の内容

1. はじめに
2. 科研費（さらっと）
3. 戦略事業（特にさきがけ・CREST）
4. 応募のご参考
5. こぼれ話

## 本日の内容

1. はじめに
2. 科研費（さらっと）
3. 戦略事業（特にさきがけ・CREST）
4. 応募のご参考
5. こぼれ話

## 1. はじめに（所属機関）



# 1. はじめに (自己紹介)



情報・システム研究機構 (ROIS) Research Organization of Information and Systems  
野水 昭彦

## 経歴

テキストで表示

2017年4月 - 現在	ROIS 男女共同参画推進室 室長代理
2016年4月 - 現在	ROIS データサイエンス共同利用基盤施設 DS推進室長
2016年4月 - 現在	JST CREST「数理モデリング」領域運営アドバイザー
2015年12月 - 2017年3月	ROIS 女性研究者活動支援室 室長代理
2014年9月 - 2016年3月	JST CREST「数学と諸分野の協働」領域運営アドバイザー
2014年3月 - 現在	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 (ROIS) シニア URA
2013年4月 - 2014年2月	JST さきがけ「ビッグデータ基盤」技術参事
2010年10月 - 2013年3月	JST さきがけ「数学と諸分野の協働」技術参事
2010年1月 - 2010年9月	JST さきがけ「数学と諸分野の協働」領域担当
2009年7月 - 2010年3月	JST さきがけ「デジタルメディア」領域担当
2008年5月 - 2014年2月	JST さきがけ「知の創生と情報社会」領域担当
2007年4月 - 2011年3月	科学技術振興機構 (JST) さきがけ「構造制御と機能」領域担当

研究教育機関  
(先端研究)  
(事業推進)

研究開発機関  
(研究戦略)  
(研究助成)  
(事業運営)

民間企業  
(研究開発)  
(研究管理)  
(企画)

それまでは「企業人」  
・ 向: 設計開発子会社の立上げ、関東地区責任者、人事評価制度構築 & 採用活動も  
・ 開発本部: 新たな研究開発センター立上げ  
・ 研究所: 電子部品 (半導体デバイス) の研究開発、研究管理、技術企画  
・ 事業部: 音響機器の設計開発

# 1. はじめに (プレアワードが大流行)



第2日目 8月30日(水)	大会会場A (4F/500名)	中会場B (5F/200名)	会場C (5F/84名)	会場D (4F/40名)	会場E (4F/40名)	会場F (4F/38名)	会場G (4F/70名)	会場H (3F/72名)	会場P (3F)
9:20-10:50	F-1 国際化 URA連携による国際共同研究促進	クラリベイト/アナリティクス	NFIサイバーパトナ株式会社	B-5 組織マネジメント 大学先鞭ベンチャー支援	C-2 プレアワード 省庁関係者と URAのセッション	口頭発表 詳細は後日ホームページにて発表	K-1 教育セッション/スキルプログラム 専門委員会 プレアワード <b>Beginner</b>	ポスター発表 発表者グループ	C-4 プレアワード フォーワード/アワード/ノーメンタリー/メンタリー 担当者との対話
11:00-12:30	RA協議会 年次大会 実行委員会	F-2 国際化 学際連携による学内連携	B-4 組織マネジメント URAのキープワード 独立、自立の事例 課題	C-1 プレアワード プロジェクト/創成	H-1 人文・社会系実証 人文・社会系実証 研究の特性と活用のアビリティについて考える	口頭発表 詳細は後日ホームページにて発表	参加者 ネットワーキング (2日目) 自由テーマ 詳細は後日ホームページにて発表	K-2 教育セッション/スキルプログラム 専門委員会 プレアワード <b>Beginner</b>	ポスター発表 発表者グループ
12:40-13:40	昼食など	昼食など	昼食など	昼食など	昼食など	昼食など	昼食など	昼食など	昼食など
13:50-15:20	O-1 オープンサイエンス クラウドファンディング	B-1 組織マネジメント URA組織のマネジメント <b>Advanced</b>	M-2 その他 科学技術者社会の課題	C-3 プレアワード プレアワード実施におけるマーケティングの活用	M-1 その他 独立大学の研究力強化	E-1 産官学連携 地域企業との産学連携	企業ブース/ホスター展示	B-3 組織マネジメント URAの定着	ポスター発表 発表者グループ
15:30-16:00	Closing								

# 1. はじめに (昨日)

## C-4: プレアワード

### ファンディングエージェンシー担当者との対話

8月29日 (火) 10:40-12:10 会場H (3階)

本セッションでは、ファンディングエージェンシーの中でシタク的な機能を担っている部門の担当者をお呼びし、日本の科学技術イノベーション政策に更に貢献するためのあり方として、「URAファンディングエージェンシー」の対話を取り上げます。

まず、登壇者 (JST研究開発戦略センター/NEDO技術戦略研究センター) から日頃行っている業務 (科学技術政策立案、研究重点領域提案、研究プログラム設計支援など) に加えて、実際に開かれているトピックス (SciREX (科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業)、研究基盤の整備、拠点形成事業の展開、TSC Foresightなど) を説明してもらい、その調査・分析・提案等のプロセスについて質問を行います。 (例として科学技術戦略局のトピックスの観点から、研究現場における課題の発見など) を紹介頂きます。その上で、お研究現場に近いところで、学内研究員 (研究者) の研究環境、ネットワーキング (研究交流など) を際立って、大学経営に資する情報分析、戦略立案等を行っているURA (組織) に対し、直接的、間接的な情報共有や連携等の面で期待すること、実現へのアドバイス等についてご意見を伺いたいと思います。

求正ですが、本セッションの登壇者には、個々のURAが自由に答えることを目的として、特定の興味ある事例に沿ったコーナーを設ける「ネットワーキングセッション」にもお付き合い頂きたいと考えております。個別の質問や深い議論がある方は、もちろんご参加ください (ネットワーキングセッションの詳細は事務局「ネットワーキングセッション」概要をご覧ください)。

以上、これらの組みを通じて、本大会のセッション「大学の新たな機能としてのURA」の議論が深まることが期待したいと思っております。

### オーガナイザー/司会者



丸山 浩平: 早稲田大学 研究戦略センター 教授

1994年JAL (株) 入社。産業界機械ROISに参事した後、全社技術戦略、新事業開発部長等を経て、2004年博士 (工学) (東京大学)。2005年から早稲田大学生命医工学研究所でバイオセンシング研究に従事。2009年から研究戦略センター専任教授。2012年から東京工業大学専任教授。2014年から早稲田大学研究戦略センター専任教授 (2017年再任教授)、東京工業大学非常勤講師、JST研究開発戦略センター特任アドバイザーを兼務。専門は技術戦略立案、計画等。

### 講演者



中川 尚志: 科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー

2000年科学技術博士入学  
2004年政策研究大学院大学専攻博士卒業 (人事院留学)  
2005-07年学術振興会総合研究開発研究所  
2009-11年JOCIP (統合国際共同研究計画) リンク (半導体/高分子)  
2014-16年文部科学省科学技術・学術政策研究開発推進課課長補佐  
2016年6月2日退職  
専門は、産業研究 (研究戦略、計画技術)、科学技術社会論、科学コミュニケーション、技術イノベーション



小山田 和仁: 科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー

2003年東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。産業技術総合研究所、日本学術振興会、科学技術振興機構を経て、2012年の政策研究大学院大学にて文部科学省「科学技術イノベーション政策」における「政策のための科学」推進事業 (SciREX) の推進に関わる。2017年6月2日退職。その他、日本の研究環境の改善に向けた取り組みを行うネットワーキングイニシアチブの推進も実施している。

成老 浩樹: 新エネルギー産業技術総合開発機構 技術戦略研究センター 主任研究員

1991年 早稲田大学応用化学科入学。1995年 東京工業大学・資源化学研究所助手。2000年 (同) 助教授 (専任)、大学の専任は無機化学工学・無機材料科学、電気材料、エネルギー、環境への応用研究に従事。2015年よりNEDO技術戦略研究センター技術アドバイザー・材料中心主任研究員として、技術戦略の策定に従事。

# 1. はじめに (今、上のフロアその1)

## C-2: プレアワード

### 省庁関係者とURAのセッション

8月30日 (水) 9:20-10:50 会場E (4階)

現在、日本の学術基盤が低下している。その原因の1つとして、各大学において、共有すべき情報共有が共有されていない現状がある。共有すべき情報はURA同士で共有することにより、各大学の強みや弱みを知るにつなげる。また、URAと政策現場 (文科省等) のネットワークが形成され、情報共有することで、現場ニーズにあった事業が多く創出され、日本の研究力強化につながるが予想される。ついで、現場URAが、日本の学術基盤が低下している現状を踏まえ、各大学の特色を踏まえ、政策現場 (文科省等) と各大学URAが日常的につながる場 (ネットワーク) を形成する必要性の理解を目指す。本セッションでは、まず文部科学省から、URA政策現場のつながりについて、課題の提供を受ける。

次いで、ネットワーキング事業を事例に、ネットワーク形成と研究力強化のあり方を学ぶ。また、科学技術振興機構から、制度設計のための現場調査や現在公費中の未事業創造事業の領域設定に係る政策策定と交流があり、トップダウン型と問われる事業及びボトムアップ型事業の性質の違い等を考察する。

### オーガナイザー



舟山 篤生: 金沢大学 研究推進部研究推進課 一般職員

平成25年 金沢大学にて一般事務に採用され、研究推進部研究推進課学芸課 職員を経て、平成27年7月に文部科学省イノベーション推進機構 URAを専任。

### 司会者



水野 充: 金沢大学 先端科学イノベーション推進機構 特任教授

昭和59年 日本科学技術振興センター (現 科学技術振興機構) 入社。IT部門にて文部科学省システム (DOIS 現在のDream) 担当。その後、独立行政法人による「ネットワーキング」による「JSTN International」の立ち上げ。平成15年より地域産業振興に「アナリティクス」事業を推進。平成20年より researchmap、JREC-IN Portal、3-STAGE、JALC等情報サービス企画・運営を推進。平成27年11月20日金沢大学にてURA専任に就任。平成28年4月よりURA協議会専任職員。

### 講演者



斉藤 卓也: 徳島大学 副学長  
元文部科学省 研究振興局基礎研究推進室 室長

平成17年科学技術博士入学。UICサテライト留学。外務省在オーストラリア日本大使館一等参事官を経て、政策科学推進委員、予備会議委員、評議員、科学技術政策担当大臣秘書官、基礎研究推進局長等を経て、平成29年8月6日退職。



江端 新吾: 北海道大学 URAステーション ステーション長補佐

H21、北海道大学大学院博士課程修了。博士 (理学)。専門は宇宙化学・分析化学。大阪大学博士課程を経て、H23 (理学)、専門は宇宙化学・分析化学。H26、NSTEP専任研究員 (特務汎用政策推進)、第4期URAシブシブ、第5期URA研究推進員、H27、主任URA推進員、GFC副センター長、及び宇宙科学省科学技術・学術政策推進委員。H28、ステーション長補佐。H29より総合推進局長を専任。



笹月 俊郎: 科学技術振興機構 戦略研究推進部 部長

民間企業を経て平成14年1月科学技術振興事業団 (現 科学技術振興機構) 入社。地域産業振興に「R&D推進」等。地域産業共同研究事業を担当。産学連携推進として「アナリティクスイノベーション」の推進に尽力。STORIS (特許データベース) を、続いて「産学連携センター」 (産学連携推進センター) の立ち上げを担当。その後、人材財を経て、平成25年4月2日退職。

# 1. はじめに (今、上のフロアその2)

## 口頭発表：会場F (4階)

8月30日 (水)

口頭発表3 / 9:20-10:50

座長：本田 一貴 (熊本大学 大学院先導機構 URA推進室 URA)

発表番号	分野	発表代表者	タイトル	頁
03-01	プレアワード	加藤 英之	つくばエリアにおける研究者連携・研究支援者連携の活性化の試み	93
03-02	プレアワード	房 賢貞	能動的アプローチによる研究支援・推進活動について	93
03-03	プレアワード	新道 真代	若手研究者向け申請書改善支援利用者の属性とその効果	94
03-04	プレアワード	大屋 知子	外部資金獲得支援のスキル向上を目的としたトレーニング手法等についての検討	94
03-05	広報	花岡 宏亮	学内研究者に研究支援情報を効果的に情報発信するための取組	95
03-06	広報	今羽右左 デイヴィッド 甫	研究広報の現状と今後の課題：新たなステージへ	95

# 1. はじめに (昨日の和室で)

参加者ネットワーキングセッション「プレアワード」



# 1. はじめに (プレアワードって?)

(2) プレアワード業務 東京大学 スキル標準より

① 研究プロジェクト企画立案支援	外部資金獲得状況等から他大学との比較、採択結果の分析等を行う。また、研究者のマッチング、研究チームの構成員候補のリストアップ等の外部資金に応募する研究プロジェクトの企画案の策定のための支援、調整等を行う。
② 外部資金情報収集	国、ファンディング・エージェンシーや企業等が募集する補助金・委託事業等の国内外の外部資金及び関連情報について、その策定段階からインターネットや関係者へのヒアリング等を通じて収集、募集内容、対象や要件等を分析し、背景となる政策動向や外部資金獲得によるメリット・デメリット等を把握し、適切な研究分野・経験を持つ研究者に情報提供を行う。
③ 研究プロジェクト企画のための内部折衝活動	外部資金受入、研究プロジェクトに必要な研究資源の確保や協力機関との契約等締結に関する事務局との調整、学内の研究者・研究科等への研究プロジェクトへの参画交渉・調整を行う。また、申請件数が限られている大型外部資金について、学内ヒアリング等を通じて公募条件の合致の確認、申請件数の調整を行う。
④ 研究プロジェクト実施のための対外折衝・調整	学外の研究者・研究機関への研究プロジェクトへの参画交渉や外部資金受入、事業計画・NDA等の契約等締結に関する協力機関との調整を行う。
⑤ 申請資料作成支援	研究者の発想を整理し、必要なデータ等の収集、外部資金の申請書の研究計画の分筆・ドラフトや予算計画の作成を行う。また、申請書の添削・改善アドバイスや形式・内容が公募条件等に適合しているかどうかの確認を行う。申請書等を基にヒアリング審査等におけるプレゼンテーション資料等の作成や支援を行う。申請書やプレゼン資料作成指導セミナー等を開催する。

(3) ポストアワード業務

# 本日の内容

1. はじめに
2. 科研費 (さらっと)
3. 戦略事業 (特にさきがけ・CREST)
4. 応募のご参考
5. こぼれ話

# 2. 科研費 (さらっと)

競争的資金制度(平成29年度)

府省名	配分機関	制度名	平成29年度 予算額 (百万円)	
内閣府	食品安全委員会事務局	食品健康影響評価技術研究	177	
		小計	177	
総務省	本省	戦略的情報通信研究開発推進事業	2,166	
		ICTイノベーション創出チャレンジプログラム	291	
		デジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発	39	
		消防庁	消防防災科学技術研究推進制度	126
	小計	2,622		
文部科学省	本省/日本医療研究開発機構	国家課題対応型研究開発推進事業	22,898	
		科学研究費助成事業(科研費)	228,350	
		科学技術振興機構	未来社会創造事業	3,000
		科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	戦略的創造研究推進事業	61,127
		科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	研究成果展開事業	27,447
		科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	国際科学技術共同研究推進事業	3,627
	小計	346,449		
厚生労働省	本省	厚生労働科学研究費補助金	4,603	
		日本医療研究開発機構	医療研究開発推進事業費補助金	38,725
		日本医療研究開発機構	保健衛生医療調査等推進事業費補助金	5,274
		小計	48,602	
農林水産省	本省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	3,070	
		小計	3,070	
経済産業省	本省	戦略的基盤技術高度化・連携支援事業	10,253	
		小計	10,253	
国土交通省	本省	建設技術研究開発助成制度	240	
		交通運輸技術開発推進制度	146	
		小計	386	
環境省	環境再生保全機構	環境研究総合推進費	5,293	
		原子力規制庁	放射線安全規制研究戦略的推進事業費	273
		小計	5,566	
防衛省	防衛装備庁	安全保障技術研究推進制度	10,780	
		※平成29年度は契約ベース(当該年度に結ぶ契約額の合計)	10,780	
	小計	427,905		
合計			427,905	

# 2. 科研費 (さらっと)

競争的資金制度(平成29年度)

府省名	配分機関	制度名	平成29年度 予算額 (百万円)	
内閣府	食品安全委員会事務局	食品健康影響評価技術研究	177	
		小計	177	
文部科学省	本省/日本医療研究開発機構	戦略的情報通信研究開発推進事業	2,166	
		小計	2,622	
		国家課題対応型研究開発推進事業	22,898	
		科学研究費助成事業(科研費)	228,350	
		科学技術振興機構	未来社会創造事業	3,000
		科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	戦略的創造研究推進事業	61,127
科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	研究成果展開事業	27,447		
科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	国際科学技術共同研究推進事業	3,627		
	小計	346,449		
厚生労働省	本省	厚生労働科学研究費補助金	4,603	
		日本医療研究開発機構	医療研究開発推進事業費補助金	38,725
		日本医療研究開発機構	保健衛生医療調査等推進事業費補助金	5,274
		小計	48,602	
農林水産省	本省	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	3,070	
		小計	3,070	
経済産業省	本省	戦略的基盤技術高度化・連携支援事業	10,253	
		小計	10,253	
国土交通省	本省	建設技術研究開発助成制度	240	
		交通運輸技術開発推進制度	146	
		小計	386	
環境省	環境再生保全機構	環境研究総合推進費	5,293	
		原子力規制庁	放射線安全規制研究戦略的推進事業費	273
		小計	5,566	
防衛省	防衛装備庁	安全保障技術研究推進制度	10,780	
		※平成29年度は契約ベース(当該年度に結ぶ契約額の合計)	10,780	
	小計	10,780		
合計			427,905	

# 2. 科研費 (さらっと)

The screenshot shows the homepage of the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS). The main navigation bar includes '一般の方へ' (For General Public) and '研究者/機関担当者の方へ' (For Researchers/Institution Staff). The central banner features a '若手研究者海外挑戦プログラム' (Young Researchers Overseas Challenge Program) with a description of international challenges and support for young researchers. Below the banner, there are several tabs for different research programs: '研究助成事業' (Research Grant Programs), '国際交流事業' (International Exchange Programs), '人材育成事業' (Human Resource Development Programs), '社会との連携の推進' (Promotion of Collaboration with Society), and '顕彰事業' (Recognition Programs). The '研究助成事業' tab is selected, and the '科学研究費助成事業' (Research Grant Programs) section is highlighted. A '科研費' (Research Fee) link is visible in the navigation menu. The right sidebar contains a '電子申請はこちら' (Electronic Application Here) button and a 'ご意見・ご要望受付窓口' (Opinion/Request Reception Window) section.

## 2. 科研費 (さらっと)

日本学術振興会  
科学研究費助成事業  
Grants-in-Aid for Scientific Research  
(学術研究助成基金助成金 / 科学研究費補助金)

日本学術振興会からのお知らせ

「科学研究費助成事業実務担当者向け説明会」の資料について

○「科学研究費助成事業実務担当者向け説明会」の資料について

「科学研究費助成事業実務担当者向け説明会」の資料を掲載しました。  
なお、説明会で配布しました資料から誤字等軽微な修正を行った上で掲載しております。

■ **科学研究費助成事業実務担当者向け説明会 (午前の部) 資料**

■ **科学研究費助成事業実務担当者向け説明会 (午後の部) 資料**

- 第一部「本年度の主な変更点等について」
- 第二部「国際共同研究加速基金について」
- 第三部「研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止について」
- 第四部「交付内定から研究成果報告までの手続きの概要について」
- 第五部「交付決定後の各種変更手続きについて」

## 2. 科研費 (さらっと)

平成27年度

### 科学研究費助成事業 実務担当者初任者研修会

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE  
日本学術振興会 科研費

#### 本説明会の趣旨・内容

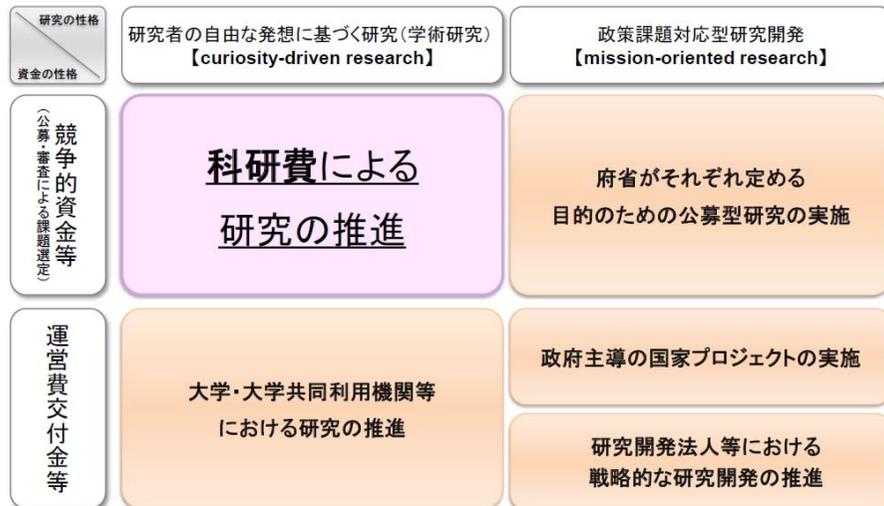
「趣旨」

- 初めて科学研究費助成事業(科研費)の実務を担当される方々に基本的な仕組みや現状を理解していただくこと
- 実務担当者の方々に、科研費についてより深く理解していただき円滑に業務を行っていただくこと

「内容」

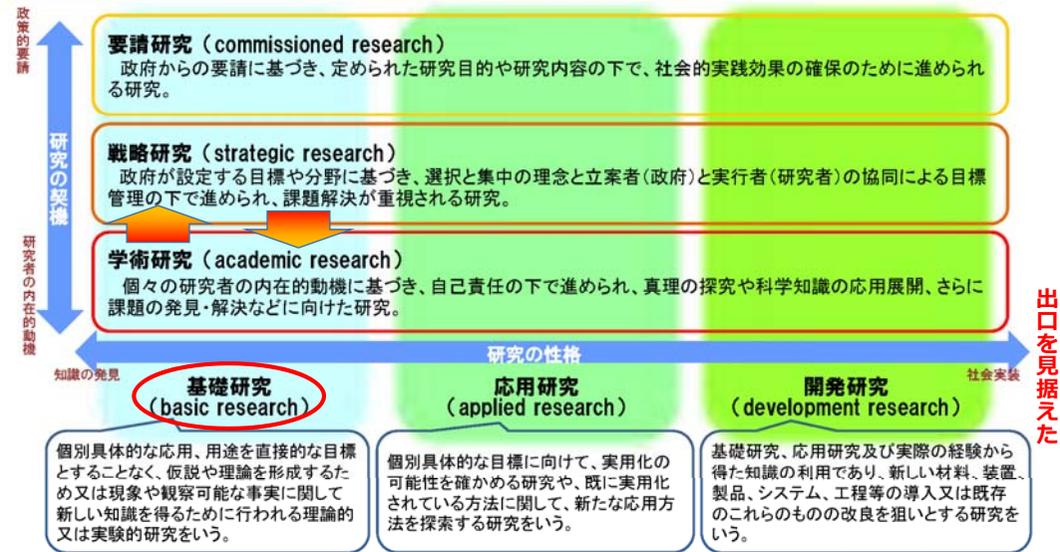
1. 科研費制度の概要
2. 科研費への応募・審査
3. 科研費の管理と適正な執行
4. 研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止
5. 研究成果の公開、普及・啓発
6. 平成27年度予算の概要

## 我が国の科学技術・学術振興方策における「科研費」の位置づけ



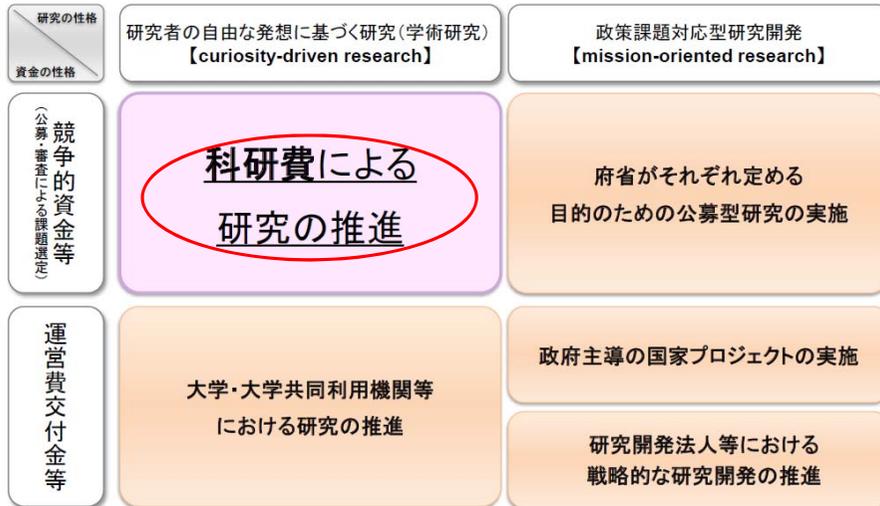
※科研費は、研究者からの研究計画の申請に基づき、厳正な審査を経た上で採否が決定されます。このような研究費制度は「競争的資金」と呼ばれています。  
科研費は、政府全体の競争的資金の約5割以上を占める我が国最大規模の研究助成制度です。(平成27年度予算額2,273億円)

図4-1 / 研究の分類



出典：「東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術政策の在り方について(建議)」(平成25年1月17日科学技術・学術審議会)、「科学技術研究調査報告」(総務省)、「Frascati Manual」(OECD)を踏まえた上で平成27年1月に文部科学省作成

## 我が国の科学技術・学術振興方策における「科研費」の位置づけ



※科研費は、研究者からの研究計画の申請に基づき、厳正な審査を経た上で採否が決定されます。このような研究費制度は「競争的資金」と呼ばれています。  
 科研費は、政府全体の競争的資金の約5割以上を占める我が国最大規模の研究助成制度です。(平成27年度予算額2,273億円)

5

## 2. 科研費 (さらっと)

### 「科研費審査システム改革2018」説明会当日資料等

#### 説明会当日資料

##### 当日配布資料

- 科学研究費助成事業(科研費)審査システム改革2018に関する意見募集について(PDF:1790KB)
- 「科研費審査システム改革2018」パンフレット(PDF:1982KB)

##### 「科研費審査システム改革2018」についての説明資料

- 科学研究費助成事業(科研費)審査システム改革2018 (PDF:1296KB)

#### 説明内容動画



## 2. 科研費 (さらっと)



## 2. 科研費 (さらっと)



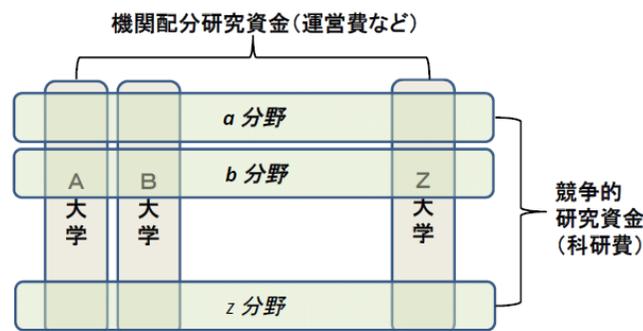
6

## 2. 科研費（さらっと）

### 科学研究費助成事業－科研費－の目的・性格

科学研究費助成事業（以下、「科研費」という。）は、人文学、社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」であり、ピアレビュー（専門分野の近い複数の研究者による審査）により、豊かな社会発展の基盤となる独自の・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

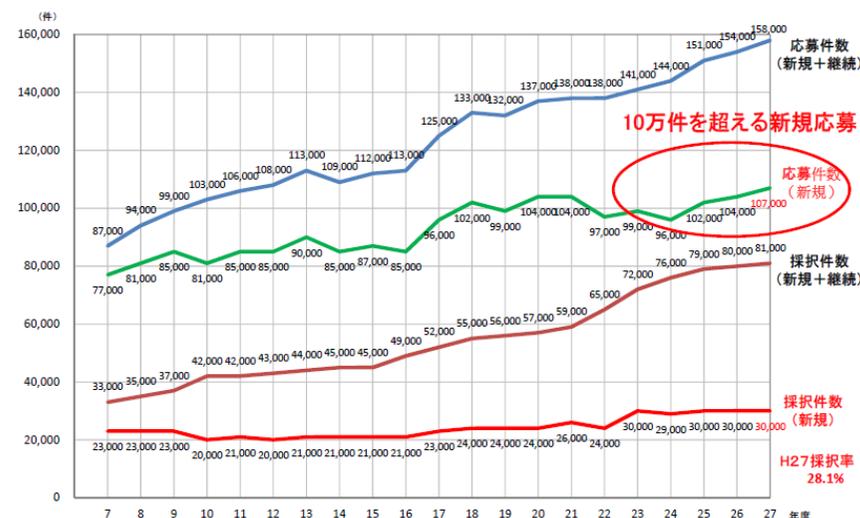
（平成28年度科学研究費助成事業－科研費－公募要領より抜粋）



7

## 2. 科研費（さらっと）

### 膨大な応募件数（新規約10万件）



10

## 2. 科研費（さらっと）

### 改革のエッセンス

#### “科研費基本構造の見直し”

科研費細目表見直し，大括り化，審査方式再構築，種目等

- 細目による“研究分野”の細分化・固定化を打破（「たこつぼ化」を是正）
- 従来より広い審査区分の導入による，研究者の意識改革へ
- 応募者はこれまでより広い審査区分に対応した研究計画調書の作成を
- 審査員はより広い内容の審査を

5

## 2. 科研費（さらっと）

### 新しい審査区分の策定

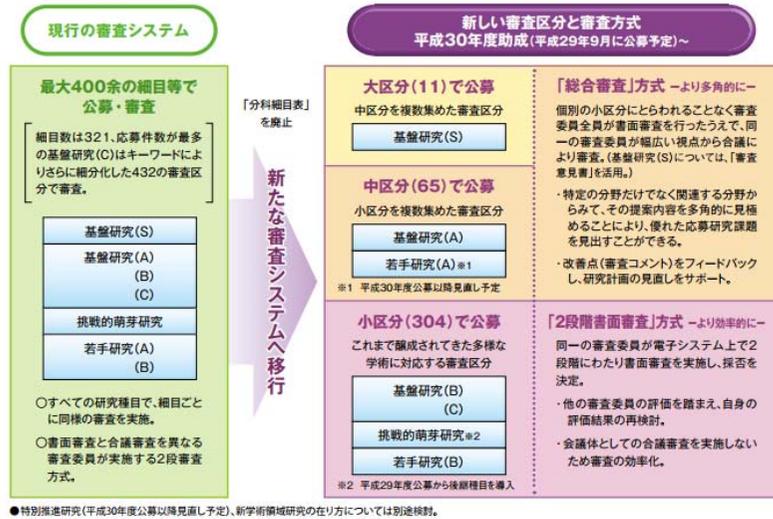
- 現行の「系・分野・分科・細目表」を廃止し、小区分、中区分、大区分からなる「審査区分表」を策定する。
- 新たな「審査区分表」は、審査区分表（小区分一覧）、審査区分表（中区分、大区分一覧）からなる。
- 「審査区分表」は科研費審査のための区分を表すものであり、大学の学科や学会の分野などに基いているものではない。（学術の分類ではない）
- 学術システム研究センターにおいて、専門調査班での議論を中心として、2年にわたる検討を経て作成したものである。

22

## 2. 科研費（さらっと）

### ●【「科研費審査システム改革2018」のポイント】

### 科研費の公募・審査の在り方を抜本的に見直し、 多様かつ独創的な学術研究を振興する



## 2. 科研費（さらっと）

### 日本学術振興会からのお知らせ

平成30年度科学研究費助成事業の研究計画調書について

◀ BACK

#### ○平成30年度科学研究費助成事業の研究計画調書について

平成30年度科学研究費助成事業に係る公募・審査より、審査区分および審査方式を見直し、新たな審査区分として「小区分、中区分、大区分」を設定するとともに、新たな審査方式として「総合審査」及び「2段階書面審査」を導入する予定です（「科研費審査システム改革2018」（詳細は参考2を参照してください））。

当該見直しを踏まえ、平成30年度科学研究費助成事業から適用する新たな研究計画調書について検討したところです。については、応募を希望している研究者が円滑に対応できるよう、平成29年9月に公募を予定している研究種目のうち、特に従前の研究計画調書を大きく変更する予定の「特別推進研究」、「基礎研究（一般）」、「若手研究」の研究計画調書の自定版を公表する予定です。なお、研究計画調書の英語版についても作業中であり、準備ができ次第公表する予定です。

また、平成30年度科学研究費助成事業に係る審査において適用する審査基準等を定めた「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会）については、本年9月早々に本会ホームページにおいて公開する予定です。

研究種目	様式	
特別推進研究		31P
基礎研究（S）		18P
基礎研究（A）		16P
基礎研究（B）		15P
基礎研究（C）		14P
若手研究		12P

※今回公表する研究計画調書は暫定版ですので、本年9月に公表する予定の研究計画調書を本会ホームページにて必ずご確認ください。

## 2. 科研費（さらっと）

トップ > 科研費 > 研究費 > 研究費助成事業 > 文部科学省の競争的資金一覧 > 科学研究費助成事業 > 科研費 > 「平成30年度科学研究費助成事業公募要領解説会」の開催について(通知)

### ●「平成30年度科学研究費助成事業公募要領等説明会」の開催について(通知)

事務連絡  
平成29年8月2日

関係各研究機関代表者 殿

文部科学省研究振興局学術研究助成課長  
小柳 尚 徳

「平成30年度科学研究費助成事業公募要領等説明会」の開催について(通知)

文部科学省では、平成30年度の科学研究費助成事業の公募に当たり、全国の関係研究機関を対象として、標記説明会を日本学術振興会と合同で開催します。本説明会では、科研費改革の概要、平成30年度公募内容の変更点等について説明を行う予定です。

会場説明会におかれましては、事務担当者だけでなく、研究者を含め、関係者の出席について御協力くださるようお願いいたします。

本説明会への出席に当たっては、平成29年8月2日(木曜日)14時から平成29年8月17日(木曜日)までに、ホームページ掲載の参加登録フォームより登録をお願いします。なお、説明会当日の受付は、参加登録完了のメールとともに発行される受付番号にて行いますので、必ず受付番号を印刷のうえ、御来場ください。

#### 開催日時

東日本会場:平成29年8月6日(水曜日)  
(午前の部)10時00分～12時00分  
(午後の部)14時00分～16時30分  
※東日本会場での説明会については撮影を行い、後日、ホームページにて資料の掲載及び動画配信を行う予定です。

西日本会場:平成29年8月8日(金曜日)  
(午前の部)10時00分～12時00分  
(午後の部)14時00分～16時30分

#### 開催場所

東日本会場:東京大学 安田講堂(東京都文京区本郷7-3-1)  
[安田講堂へのアクセス\(※東京大学ウェブサイトにリンク\)](#)

西日本会場:関西学院大学 中央講堂(兵庫県西宮市上ヶ原一丁目1-195)  
[中央講堂へのアクセス\(※関西学院大学ウェブサイトにリンク\)](#)

# 本日の内容

1. はじめに
2. 科研費（さらっと）
3. 戦略事業（特にさきがけ・CREST）
4. 応募のご参考
5. こぼれ話

## 3. 戦略事業（戦略的創造研究推進事業）

		小 計	2,622
文部科学省	本省/日本医療研究開発機構	国家課題対応型研究開発推進事業	22,898
	日本学術振興会	科学研究費助成事業(科研費)	228,350
	科学技術振興機構	未来社会創造事業	3,000
	科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	戦略的創造研究推進事業	61,127
	科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	研究成果展開事業	27,447
	科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	国際科学技術共同研究推進事業	3,627
		小 計	346,449
本省		厚生労働科学研究費補助金	4,603

## 3. 戦略事業（戦略的創造研究推進事業）

		小 計	2,622
文部科学省	本省/日本医療研究開発機構	国家課題対応型研究開発推進事業	22,898
	日本学術振興会	科学研究費助成事業(科研費)	228,350
	科学技術振興機構	未来社会創造事業	3,000
	科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	戦略的創造研究推進事業	61,127
	科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	研究成果展開事業	27,447
	科学技術振興機構/日本医療研究開発機構	国際科学技術共同研究推進事業	3,627
		小 計	346,449
本省		厚生労働科学研究費補助金	4,603

## 3. 戦略事業（戦略的創造研究推進事業）

### 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

戦略的創造研究推進事業は、我が国が直面する重要な課題の達成に向けた基礎研究を推進し、社会・経済の変革をもたらす科学技術イノベーションを生み出す、新たな科学知識に基づく創造的な革新的技術のシーズを創出することを目的としています。そのために、大学・企業・公的研究機関等の研究者からなるネットワーク型研究所（組織の枠を超えた時限的な研究体制）を構築し、その所長であるプログラムオフィサー（研究総括等）による運営の下、研究者が他の研究者や研究成果の受け手となる産業界や広く社会の関与者とのネットワークを構築しながら、研究を推進します。

我が国が直面する重要な課題の達成に向けて、国が定めた戦略的な目標等

#### バーチャル・ネットワーク型研究所の構築・運営

- ・プログラムディレクター（研究主監等）が制度全体を統括し、運営方針等を検討
- ・課題達成に向けた研究領域・プログラムオフィサー（研究総括等）の最適な設定
- ・プログラムオフィサー等の目利きによる先導的・独創的な研究者の発掘
- ・課題の進捗状況等に応じた柔軟・機動的な研究計画・研究費配分の決定・見直し

#### <研究プログラム>

新技術シーズ創出  
(CREST, さきがけ, AGT-I, ERATO, AGT-G, ACCCEL)

先端的低炭素化技術開発  
(ALCA)

社会技術研究開発  
(RISTEX)

科学技術イノベーションの創出へ

JSTだと、

- ◆産学連携個別課題型：研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）、S-イノベ（戦略的イノベーション創出推進プログラム）、…
- ◆産学連携拠点型：センターオブイノベーション（COI）プログラム、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）、…

### 3. 戦略事業（戦略的創造研究推進事業）

#### 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

国の科学技術政策や社会的・経済的ニーズを踏まえ、日本が取り組むべき課題達成に向けた「**戦略目標**」を国（文部科学省）が設定し、そのもとにJSTが推進すべき**研究領域**と、研究領域の責任者である**研究総括**（プログラムオフィサー）を定めます。研究総括は、研究領域を「**バーチャル・ネットワーク型研究所**」として運営します。

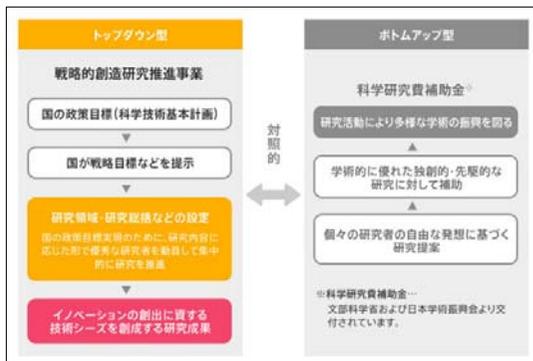
◆**戦略目標**（国＝文科省が定める）

◆**研究領域＋研究総括**（JSTが定める）

◆**戦略事業**（プログラム）：  
CREST、さががけ、ACT-I、ERATO、ACT-C、ACCEL、ALCA、RISTEX…

・CREST：  
チーム型研究、研究期間＝5年半以内、研究費総額＝1.5～5億円

・さががけ：  
個人型研究、研究期間＝3年半以内、研究費総額＝3～4千万円



※トップダウン型（戦略事業）とボトムアップ型（科研費）の比較

### ◆戦略目標（国＝文科省が定める）



#### 平成29年度戦略目標及び研究開発目標の決定について

平成29年3月10日

科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業（新技術シーズ創出）について、平成29年度の戦略目標として5つの目標を決定し、日本医療研究開発機構（AMED）革新的先端研究開発支援事業について、平成29年度の研究開発目標として1つの目標を決定しましたので、お知らせいたします。

#### 1. 戦略的創造研究推進事業（新技術シーズ創出）及び革新的先端研究開発支援事業について

平成14年度に発足した「戦略的創造研究推進事業（新技術シーズ創出）」（以下、「戦略事業」という。）は、トップダウンで定めた戦略目標・研究領域において、大学等の研究者から提案を募り、組織・分野の枠を超えた時限的な研究体制（ネットワーク型研究所）を構築して、イノベーション指向の戦略的な基礎研究を推進するJSTの運営費交付金による競争的資金制度です。平成27年度からは、AMEDの発足に伴い、戦略事業の一部を移管し、「革新的先端研究開発支援事業」（以下、「革新事業」という。）として、革新的医薬品や医療機器、医療技術等を創出することを目的に、客観的根拠に基づき定められた研究開発目標の下、大学等の研究者から提案を募り、組織の枠を超えた時限的な研究体制を構築し、画期的シーズの創出・育成に向けた先端的な研究開発を推進しております。

#### 2. 平成29年度の戦略目標及び研究開発目標について

文部科学省では、毎年、国内の将来の社会経済に大きな影響をもたらす新技術シーズを創出するための目標を、戦略事業の戦略目標として定めております。また、平成27年度からは、革新的先端研究開発支援事業の目標として定めております。この戦略目標及び研究開発目標に基づき、大学等の研究者から提案を募り、組織の枠を超えた時限的な研究体制を構築し、画期的シーズの創出・育成に向けた先端的な研究開発を推進しております。

次頁

### ◆戦略目標（国＝文科省が定める）

#### 2. 平成29年度の戦略目標及び研究開発目標について

文部科学省では、毎年、国内外の研究動向を踏まえ、将来の社会経済に大きな影響をもたらす新技術シーズを創出するための目標を、戦略事業の戦略目標として定めております。また、平成27年度からは、革新的先端研究開発支援事業の目標として定めております。この戦略目標及び研究開発目標に基づき、大学等の研究者から提案が募られ、戦略的な基礎研究が推進されます。このたび、平成29年度予算の成立を前提として、平成29年度の戦略目標として以下の5件を決定し、平成29年度の研究開発目標として以下の1件を決定しました。また、戦略目標又は研究開発目標ごとに達成すべき目標をプレクダウンして定めており、当該達成目標も合わせて示しています。

#### 【戦略目標】

##### ○ナノスケール熱動態の理解と制御技術による革新的材料・デバイス技術の開発

【達成目標】  
本戦略目標では、熱に関する課題の解決や熱エネルギーの有効活用に向けて、熱の根源的な理解と制御を通じた新材料創製やデバイス開発を目的とする。具体的には、以下の達成を目指す。

- (1) ナノスケールでの熱動態の基礎的理解と熱制御基盤技術の構築
- (2) 熱に関する課題の解決や熱エネルギーの有効活用に向けた革新的材料の創製
- (3) 熱に関する課題の解決や熱エネルギーの有効活用を実現する新規デバイスの開発

##### ○実験とデータ科学等の融合による革新的材料開発手法の構築

【達成目標】  
本戦略目標では、有機無機問わず様々な材料を対象とし、物質合成や材料組織制御における実験を基盤に、データ科学等との融合を図ることで、革新的材料開発へとつながる手法の構築を目的とする。具体的には、以下の達成を目指す。

- (1) 実在物質の挙動予測モデル構築とそれを用いた物質の合成
- (2) 材料の組織制御モデル構築とそれを用いた材料の開発

##### ○ネットワークにつなげた、環境全体とのインタラクションの高度化

【達成目標】  
本戦略目標では、社会の様々な場面での活用に向けたインタラクション高度化のための新たな技術の創出や、インタラクションの理解の更なる深化を図ることを目的とする。具体的には、情報科学技術を中心に、認知科学、心理学、脳科学等の学際分野と連携し、以下の達成を目指す。

### ◆戦略目標（国＝文科省が定める）

#### 【研究開発目標】

##### ○全ライフコースを対象とした個体の機能低下メカニズムの解明

【達成目標】  
本研究開発目標では、個体の機能低下を評価・制御できるようになることを目指して、主に個体の機能低下メカニズムを解明する研究を行うとともに、基礎的技術の開発に向けたシーズ創出を行う。具体的には以下の達成を目指す。

- (1) 個体の機能低下を引き起こす要因の同定とメカニズムの解明
- (2) 個体の機能低下の評価・制御のための基礎技術のシーズ創出

#### 3. 今後の予定について

本戦略目標及び研究開発目標の決定についてそれぞれJST及びAMEDに本日通知しました。今後JST及びAMEDは、今般決定された戦略目標又は研究開発目標の達成に最適な研究領域及び研究総括等を選定し、4月中旬頃公募を開始する予定です。

（参考）4月中旬公募開始、10月1日研究開始の場合の公募等のスケジュール

- ・4月中旬頃～6月上旬頃 研究課題の公募
- ・8月下旬頃～9月中旬頃 研究課題の選定
- ・10月1日 研究の開始

【注】以上のスケジュールは参考であり、実際のスケジュールとは異なることがあります。詳細はJST及びAMEDのホームページ等でご確認ください。

#### 4. 戦略目標及び研究開発目標の詳細

- ナノスケール熱動態の理解と制御技術による革新的材料・デバイス技術の開発
- 実験とデータ科学等の融合による革新的材料開発手法の構築
- ネットワークにつなげた環境全体とのインタラクションの高度化
- 量子技術の適用による生体センシングの革新と生体分子の動態及び相互作用の解明
- 細胞外微粒子により形成される生体内蓄の機能制御と制御
- 全ライフコースを対象とした個体の機能低下メカニズムの解明

お問合せ先

研究振興局基礎研究振興課

# ◆戦略事業（AMED：公募情報）

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構  
Japan Agency for Medical Research and Development

文字サイズの変更 標準 大 特大 English

キーワードを入力 検索

機構の紹介 事業の案内 **公募情報** イベント 調達情報 採用情報 情報公開 お問い合わせ

ホーム > 公募情報 > 平成29年度「革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST、PRIME）」に係る公募について

**公募情報**

- 公募情報トップ
- 公募情報検索
- 掲載日順一覧
- 公募予告一覧
- 公募一覧
- 採択一覧
- 業務処理説明書・様式集（委託研究開発契約）
- 業務処理説明書・様式集（補助事業）
- 研究費の運用

知的財産  
知的財産ポリシー

平成29年度「革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST、PRIME）」に係る公募について

■ 平成29年度「革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST、PRIME）」に係る公募について

平成29年4月12日

種別	公募	分野	その他
研究期間（最長）	5年以上	公募種別の切り	平成29年5月30日 研究開発費 1億円以上

※5月11日追記：「資料」欄のQ&Aを更新しました。  
※5月2日追記：公募説明会当日の録画と説明会資料を掲載しました。

**公募概要** ※本公募は終了しました

研究開発領域「全ライフコースを対象とした個体の機能低下機構の解明」  
全ライフコースを対象として、個体の機能低下メカニズムを解明し、機能低下の評価・制御等の新たな健康・医療シースの創出に資する革新的な基礎研究の研究開発課題を公募します。

[In English](#)

# ◆戦略事業（JST：提案募集専用HP）

科学的創造研究推進事業  
**CREST・さきがけ・ACT-I 研究提案募集**

科学技術振興機構  
文字サイズ 標準 大 ENGLISH  
サイト内検索 検索

CONTENTS

- トップページ
- CREST・さきがけ・ACT-Iの概要
- 研究提案を募集する研究領域
- 募集説明会
- 面接対象者への連絡期日
- 面接選考会の日程
- 募集要項・様式等のダウンロード
- 応募リンク
- よくあるご質問
- 研究倫理教育に関するプログラムの受講について

CREST・さきがけ・ACT-I平成29年度研究提案募集のご案内

CREST 1.1 研究領域、さきがけ 1.4、ACT-I 1.1 研究領域において募集を行います。

<スケジュール>  
募集締切：CREST / 平成29年6月6日（火）正午  
さきがけ・ACT-I / 平成29年5月30日（火）正午  
書類選考結果の通知：平成29年7月中旬～8月上旬  
面接選考期間：平成29年7月下旬～8月中旬  
研究開始：平成29年10月以降  
※「ナノスケール・サーマルマネジメント基盤技術の創出」研究領域を除く。詳しくは「面接選考会の日程」のページをご覧ください。

【重要】  
■応募はe-Radを通じて行っていただきます。  
募集締切までにe-Radを通じた応募手続きが完了していない提案については、いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません。  
■JSTでは、競争的資金による公募型事業につきまして、「申請する研究者等は所属機関において研究倫理教育に関するプログラムを修了していること」が応募要件となります（平成27年度から実施）。また、採択された場合、研究代表者・個人研究者および研究参加者には、JSTが指定する研究倫理に関するe-ラーニングプログラムを受講していただきます。詳細は研究倫理教育に関するプログラムの受講についてのページをご覧ください。（参考）JST研究倫理ホームページ

**お問い合わせ先**

募集要項

## 3. 戦略事業（戦略的創造研究推進事業）

<p><b>CREST</b> 科学技術イノベーションにつながる卓越した成果を生み出すネットワーク型研究（チーム型）</p> <p>研究期間：5.5年以内 研究費：総額1.5億～5億円程度/チーム</p>	<p><b>さきがけ</b> 科学技術イノベーションの源泉を生み出すネットワーク型研究（個人型）</p> <p>研究期間：3.5年以内 研究費：総額3～4000万円程度/課題</p>
<p><b>ERATO</b> 卓越したリーダーによる独創的な目的基礎研究</p> <p>研究期間：約5年 研究費：総額12億円程度/プロジェクト ※研究の内容によっては、より大規模のプロジェクトも設定可能</p>	<p><b>ACT-I</b> ICT分野の若手研究者の「個の確立」を支援するネットワーク型研究（個人型）</p> <p>研究期間：1年6ヶ月以内 研究費：総額300万円/課題 を標準（最大500万円）</p>
<p><b>ALCA</b>（先端的低炭素化技術開発） ゲームチェンジャングテクノロジーによる低炭素社会形成への貢献</p> <p>研究期間：最長10年 研究費：1000万～1億円程度/年・課題</p>	<p><b>ACT-C</b>（先導的物質変換領域） 先導的物質変換技術による課題解決を目指した研究</p> <p>研究期間：5年（現在募集していません） 研究費：4000万～3億円程度/課題</p>
	<p><b>RISTEX</b>（社会技術研究開発） 社会が抱える問題の解決を目指す分野横断的研究</p> <p>研究期間：3年 研究費：総額1500万～9000万円程度/プロジェクト</p>
<p><b>ACCEL</b> トップサイエンスからトップイノベーションを生み出す</p> <p>研究期間：5年以内 研究費：数千円～3億円程度/年・課題</p>	

## 3. 戦略事業（戦略的創造研究推進事業）

研究開発戦略センター	センター長 野依 良治	(CRDS)
低炭素社会戦略センター	センター長 小宮山 宏	ALCA
中国総合研究交流センター	センター長 有馬 朗人	
日本・アジア青少年サイエンス交流事業推進室	室長 沖村 憲樹	
研究開発改革推進部	部長 森本 茂雄	
戦略研究推進部	部長 笹月 俊郎	CREST、さきがけ、ACT-I
研究プロジェクト推進部	部長 大濱 隆司	ERATO、ACT-C
環境エネルギー研究開発推進部	部長 古賀 明嗣	
社会技術研究開発センター	センター長 安藤 慶明	RISTEX

# 戦略的創造研究推進事業 (CREST・さきがけ・ACT-I)

平成29年7月



Japan Science and Technology Agency



## 制度説明

## 戦略的創造研究推進事業とは

我が国が直面する重要な課題の達成に向けて、国が定めた戦略的な目標等

### CREST、さきがけ、ACT-I においてネットワーク型研究を推進

- ・ 国が定めた方針(戦略目標)の下で戦略的な基礎研究を推進し、社会・経済の变革をもたらす科学技術イノベーションを生み出す、新たな科学知識に基づく革新的技術のシーズを創出する。
- ・ 戦略目標を達成するために、研究領域を設定して研究公募を実施し、産学の枠を超えた最適な研究者・研究課題を編成した時限的な研究体制を構築。
- ・ 研究者は、研究総括の方針の下でその支援を受けつつ、科学技術イノベーションへの展開を見据えて参画研究者間の相互連携、また国内外との連携によるネットワークを自ら積極的に形成し、活用しながら、自らが立案した研究課題を推進

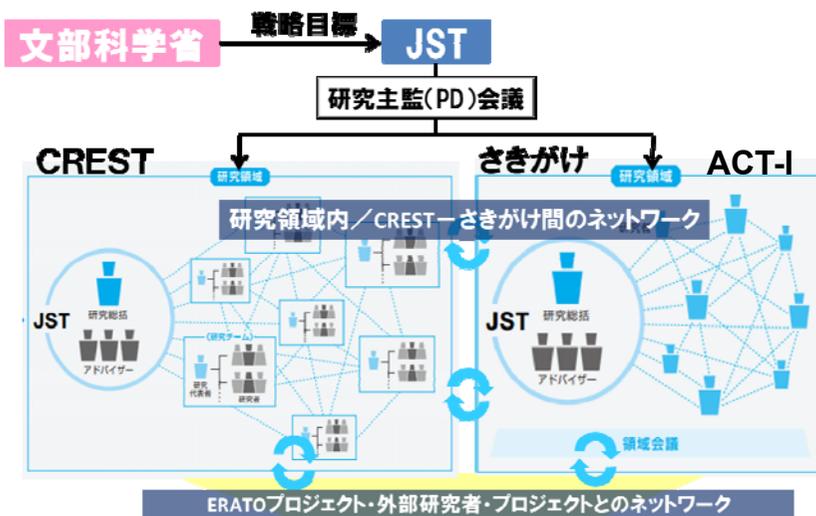
研究プログラム	新技術シーズ創出 CREST、さきがけ、ACT-I、ERATO等	先端的低炭素化技術開発 ALCA	社会技術研究開発 RISTEX
---------	-------------------------------------	---------------------	--------------------

### 科学技術イノベーションの創出へ



## 制度説明

## ネットワーク型研究について



戦略目標の達成を目指す



## 制度説明

## 「CREST」「さきがけ」とは

### CREST

科学技術イノベーションにつながる卓越した成果を生み出すネットワーク型研究(チーム型)

戦略目標の達成に向けて、**独創的**で**国際的に高い水準**の目的基礎研究を推進します。今後の科学技術イノベーションに大きく寄与する卓越した成果を創出することを目的とします。

研究期間	5.5年以内
研究費	総額1.5~5億円/チーム

### さきがけ

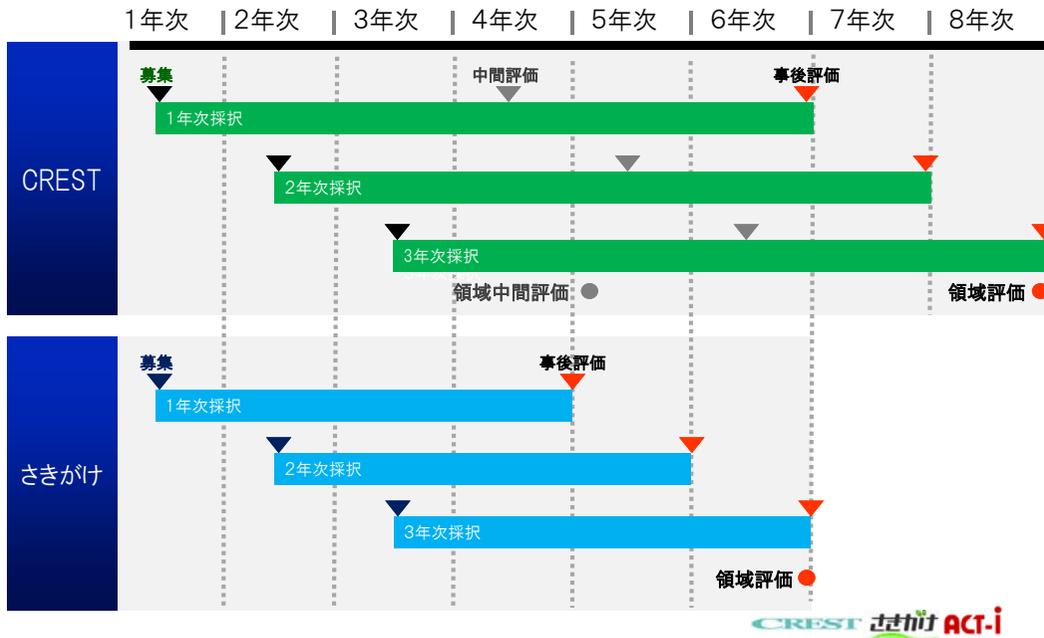
科学技術イノベーションの源泉を生み出すネットワーク型研究(個人型)

国が定める戦略目標の達成に向けて、**独創的・挑戦的**かつ**国際的に高水準**の発展が見込まれる先駆的な目的基礎研究を推進します。科学技術イノベーションの源泉となる成果を世界に先駆けて創出することを目的とします。

研究期間	3.5年以内
研究費	総額3~4000万円

※領域により上限額の設定が異なりますので、募集要項でご確認下さい。

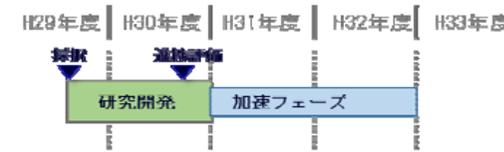




戦略的創造研究推進事業 ACT-I  
(Advanced Information and Communication Technology for Innovation)

独創的な若手研究者の「個の確立」を支援する新規プログラム

- ▶ 独創的・挑戦的なアイデアに基づく提案であり、国際的に高水準の発展が将来的に見込まれる研究であって、科学技術イノベーションの創出につながる**新しい価値の創造が期待できる情報学分野の研究を推進**します。
- ▶ 独創的な発想で人類が現在及び未来に直面する問題を解決し、**未来を切り拓こうとする情報学分野の若手研究者を見出して育成し**、研究者としての個の確立を支援します。
- ▶ 公募における年齢制限を設けるとともに大学院生や企業の研究者からの積極的な応募も期待しています。



- ✓ 募集年4/1時点で35歳未満の年齢制限
- ✓ 未来開拓型・価値創造型の研究開発

研究期間	1年6ヶ月以内
研究費	総額300万円を標準(最大500万円)

H29年度の採択数は最大30件を予定しています。1年6ヶ月の研究開発期間後の追加支援(加速フェーズ)をもし採択者が希望する場合は、研究開始1年後を目処に実施する進捗評価前に申請することで、採択時の課題数の3分の1程度が、年間最大1,000万円程度(直接経費)の研究費を最長2年間受けられる可能性があります。

- ▶ 平成29年4月1日時点で35歳未満
- ▶ 学生の方は大学院生に限り応募が可能
- ▶ 学生が応募する際は、学生及び指導教員が双方署名の上、以下の項目について確認したことを示す確認書をe-Radを通じて提出

- 学生の所属機関とJSTとの間で、委託研究契約の締結が可能であること
- 学生が委託研究を中心的に行う「研究実施担当者」、指導教員が委託研究を総括する「研究実施責任者」として、委託研究契約における責任を負うこと。
- 学生と所属機関で知的財産権の取り決めを行うことについて合意すること。

※確認書の様式は、募集要項・様式等のダウンロードページをご参照ください。  
<http://www.senryaku.jst.go.jp/teian/top/koubo.html>

本日の内容

1. はじめに
2. 科研費(さらっと)
3. 戦略事業(特にさきがけ・CREST)
4. 応募のご参考
5. こぼれ話

## ◆CREST／さきがけ：応募のポイント

出典：JST研究広報主監／CRDSフェロー／元さきがけ研究総括／洋画家  
佐藤勝昭氏の講演資料より抜粋（一部改訂、本人承諾済み）

## ◆申請書を書く前に（1）

- ・ JSTの戦略的創造研究事業は、科研費と異なり、国の重点施策にそって決められた「戦略目標」を達成するために行なわれるものです。
- ・ 国の重点施策は、総合科学技術会議が定めた「科学技術基本計画」にそって打ち出されます。
- ・ 第4期計画においては、課題達成型の研究開発が求められ、~~ライフイノベーション、グリーンイノベーション、そしてそれらを支える基盤技術として、ナノテクノロジー、ICTが重要とされています。~~

事後注：ご説明したように、本項は第4期科学技術基本計画時代のものであり、具体的な分野等の情報は現時点とは異なっています。

## ◆申請書を書く前に（2）

## CREST

- ・ チーム研究だからと言って、寄せ集めでは困ります。1つのラボでチームを編成してもよいのです。
- ・ 研究代表者は、研究チーム全体に責任を持ちつつ、研究領域の目的に貢献するように研究を推進しなければなりません。
- ・ したがって、**研究代表者には、強力なリーダーシップとマネージメント能力**が求められます。

## さきがけ

- ・ さきがけは、基本的に**個人研究**です。
- ・ よく面接の時、「我々は・・・します」と話す候補者がいますが、「私は・・・します」と1人称単数で話すべきです。
- ・ もちろん、研究室の装置や支援を得ないと研究ができないので、スーパーバイザの了解をもらってください。

## ◆JST Grant申請のポイント

- ・ 戦略目標にそって研究総括が定めた「領域のねらい」、「募集にあたって」などが公表されます。
- ・ いくら基礎的にすぐれた研究でも、「領域のねらい」に合致しないと採用されません。
- ・ 研究論文ではありません。あくまで研究課題の提案を書いて下さい。専門外の方も審査に加わります。わかりやすく、図をまじえて書いて下さい。
- ・ これまでの研究成果もすべて書くのではなく、当課題の提案の根拠になるものにとどめて下さい。

## 4. 応募のご参考

### ◆申請書の審査ポイント

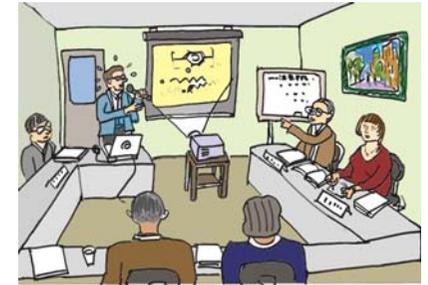
- ・オリジナリティがあるか。
- ・個人（CRESTの場合研究代表者のチーム）の貢献がどの程度あるか。
- ・期間内にどこまでしようとしているのか。
- ・計画は申請金額に見合っているか。
- ・基礎となる予備研究があるか。
- ・パブリケーションの能力があるか。



## 4. 応募のご参考

### ◆プレゼンのポイント

- ・ 専門家以外の方がいることを前提に話す。
- ・ だからといって、専門的に正確でないといけない。
- ・ パワポの字が見やすい（書き込みすぎない。）
- ・ パワポの図の意味がわかりやすい。
- ・ 質問の意味をよく理解して答える。
- ・ 質問の意味がわからないときは、聞き直す。
- ・ 聞かれたことに的確に答える。
- ・ 言葉を明瞭に。



## 4. 応募のご参考

### ◆再チャレンジが可能です

- ・ CREST/さきがけ領域は、3年にわたって公募します。
- ・ 書類審査や面接審査で採択されなかった場合には、どういう点が評価され、どういう点が評価されなかったかについて研究総括のコメントが返されます。
- ・ それを受けて、申請書を見直し、翌年、翌々年、再チャレンジすることが可能です。
- ・ CRESTでは、一部の不採択提案に対して、特定課題調査に指定して、次年度再チャレンジを条件に小額研究費を出すことができます。

## 4. 応募のご参考

### ◆今後に向けて

- ・ 戦略創造研究、とくに、さきがけは、国際的にみても日本が生みだした極めてすぐれたファンディング制度であると、2011年2月に行われたJST戦略的創造研究事業国際評価委員会が高い評価を受けています。
- ・ JSTは、この制度のさらなる拡充を目指して検討を進めており、多くの研究者からの応募を希望しています。

## 本日の内容

1. はじめに
2. 科研費 (さらっと)
3. 戦略事業 (特にさきがけ・CREST)
4. 応募のご参考 (その2)
5. こぼれ話

## 4. 応募のご参考 (その2)

### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

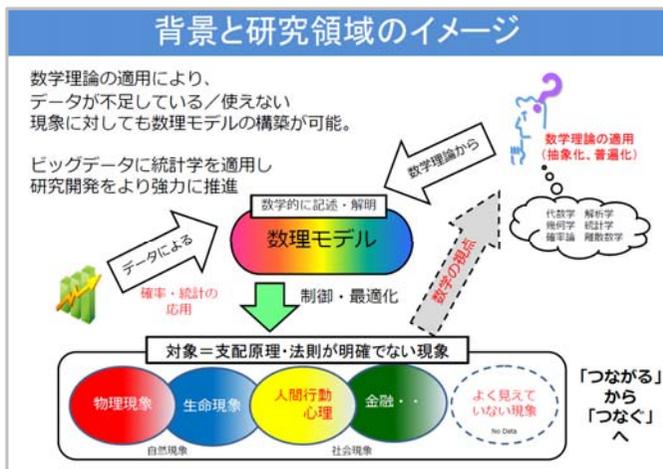
- ・戦略目標名 (例: 2014年、数学)  
「社会における支配原理・法則が明確でない諸現象を数学的に記述・解明するモデルの構築」
- ・達成目標  
社会における諸現象のうち、現時点で支配原理・法則が明確でなく、数理モデル化ができれば社会に対して大きなインパクトが見込まれる現象について、数学・数理科学の研究者と応用分野の研究者などによる異分野協働などを通じて、数学がもつ抽象性・普遍性を活用し、諸現象に潜む複雑な構造の「本質」部分を数学的に見いだすことにより、以下の実現を目指す。
  - 現象を数学的に記述するモデルの導出
  - 導出された数理モデルの実証・検証及び評価のための数学的理論等の構築

## 4. 応募のご参考 (その2)

### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

- ・研究領域名 (例: 2014年、数学CREST+ 数学+ さきがけ)  
「現代の数理科学と連携するモデリング手法の構築」  
「社会的課題の解決に向けた数学と諸分野の協働」

#### ・領域設計 (概念図)



## 4. 応募のご参考 (その2)

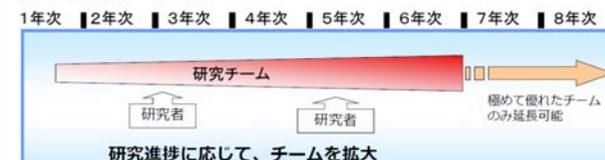
### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

- ・研究領域名 (例: 2014年、数学CREST)  
「現代の数理科学と連携するモデリング手法の構築」
- ・領域設計 (構成)

#### CRESTチーム形成

- 研究チームは領域で最適化  
～研究進捗に応じてチームを拡大
- 公募は2回(1回目がメイン、2回目は補充)
- 〇とくに優れた課題には領域終了までの延長あり

(初年度採択チームの例)



## 4. 応募のご参考 (その2)

### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

- 研究領域名 (例: 2014年、数学CREST)  
「現代の数理科学と連携するモデリング手法の構築」
- 領域設計 (概要)  
本研究領域は、数学者と数学を応用する分野の研究者が相互に連携する研究チームを構成して、現時点で解決が困難な社会的課題に取り組みとともに、そのプロセスの中で数学自体の発展をも目指すものです。具体的には、応用分野の知見と数学がもつ抽象性や普遍性を利用して、支配原理・法則が明確でない諸現象に潜む「本質」部分を見出し、数学的アイデアに裏付けられた革新的モデルを導出する研究、新しい数理的手法を開発する研究を推進します。  
また、導出された数理モデルや既存の数理モデルについて、解決すべき課題の核心となる現象を記述していることの実証・検証やモデル評価のための数学理論や技術の構築を行なう研究も含まれます (後略)。

## 4. 応募のご参考 (その2)

### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

- 研究領域名 (例: 2014年、数学CREST)  
「現代の数理科学と連携するモデリング手法の構築」
- 領域アドバイザー (選考審査)
 

阿原 一志	明治大学 総合数理学部 教授
大島 利雄	城西大学 理学部 教授
小谷 眞一	大阪大学 名誉教授
田崎 晴明	学習院大学 理学部 教授
土谷 隆	政策研究大学院大学 政策研究科 教授
中尾 充宏	九州大学 名誉教授
平田 (河野) 典子	日本大学 理工学部 教授
藤重 悟	京都大学 数理解析研究所 特任教授
宮岡 礼子	東北大学 教養教育院 総長特命教授
村上 英樹	新日鐵住金 (株) 執行役員/技術開発本部プロセス研究所長
山田 道夫	京都大学 数理解析研究所 教授/所長
- 領域運営アドバイザー (選考審査には係わらない) ←担当中

## 4. 応募のご参考 (その2)

### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

- 研究領域名 (例: 2014年、数学CREST)  
「現代の数理科学と連携するモデリング手法の構築」
- 採択手課題 (課題名)
  - 認識の数理モデルと高階・多層確率場による高次元実データ解析
  - 大規模複雑システムの最適モデリング手法の構築
  - 生命現象における時空間パターンを支配する普遍的数理モデル導出に向けた数学理論の構築
  - モデリングのための精度保証付き数値計算論の展開
  - 環境を友とする制御法の創成
  - 次世代暗号に向けたセキュリティ危殆化回避数理モデリング
  - 先端的確率統計学が開く大規模従属性モデリング
  - 臨床医療における数理モデリングの新たな展開
  - 数理モデリングを基盤とした数理皮膚科学の創設
  - ソフトマター記述言語の創造に向けた位相的データ解析理論の構築
  - 超一様性の理論と諸科学におけるランダムネスへの展開

## 4. 応募のご参考 (その2)

### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

- 研究領域名 (例: 2014年、数学CREST)  
「現代の数理科学と連携するモデリング手法の構築」
- 領域設計 (概要)  
本研究領域は、数学者と数学を応用する分野の研究者が相互に連携する研究チームを構成して、現時点で解決が困難な社会的課題に取り組みとともに、そのプロセスの中で数学自体の発展をも目指すものです。具体的には、応用分野の知見と数学がもつ抽象性や普遍性を利用して、支配原理・法則が明確でない諸現象に潜む「本質」部分を見出し、数学的アイデアに裏付けられた革新的モデルを導出する研究、新しい数理的手法を開発する研究を推進します。  
また、導出された数理モデルや既存の数理モデルについて、解決すべき課題の核心となる現象を記述していることの実証・検証やモデル評価のための数学理論や技術の構築を行なう研究も含まれます (後略)。

## 4. 応募のご参考 (その2)

### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

- ・戦略目標名 (2008年 (平成20年) の一つ)  
「多様で大規模な情報から『知識』を生産・活用するための基盤技術の創出」
- ・達成目標  
＜前略＞本戦略目標において、多様で大規模な情報から知識を生産・活用するための基盤技術の創出に取り組む。具体的には、整理・構造化した、多様で大規模な情報の分析・解析により知識を創出する技術について、応用分野における現実の課題を解決するための研究開発を、情報科学、統計数理科学、人文・社会科学等を融合して行う＜後略＞
- ・領域調査の結果は、「CREST」が妥当。

## 4. 応募のご参考 (その2)

### ◆戦略目標と研究領域 (ができるまで)

- ・研究領域名：「知の創生と情報社会」 (さきがけ)
- ・達成目標  
＜前略＞本戦略目標において、多様で大規模な情報から知識を生産・活用するための基盤技術の創出に取り組む。＜後略＞
- ・領域設計 (概要)  
本研究領域は、多様もしくは大規模なデータから、有用な情報である「知識」を生産し、社会で活用するための基盤的技術となる研究を対象としています。具体的には、大規模データを処理するための革新的な技術、統計数理科学を応用した分析・モデル化技術、あるいは実社会から得られる多様なデータを構造化・分析して知識を抽出する技術、  
・・・＜後略＞

## 4. 応募のご参考 (その2)



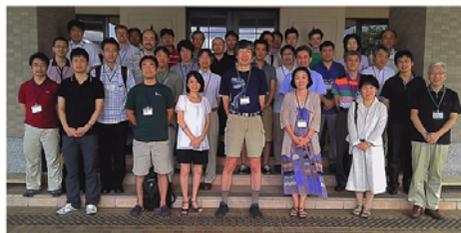
**(1) 研究領域名**  
・知の創生と情報社会

**(2) 研究領域の概要**  
本研究領域は、多様もしくは大規模なデータから、有用な情報である「知識」を生産し、社会で活用するための基盤的技術となる研究を対象としています。  
具体的には、大規模データを処理するための革新的な技術、統計数理科学を応用した分析・モデル化技術、あるいは実社会から得られる多様なデータを構造化・分析して知識を抽出する技術、センサによる情報取得やシミュレーション結果等の膨大なリソースから新たな知識を創出する技術などの基盤技術に加え、獲得した知識を実社会に適用するために必要とされる、シミュレーション、データの可視化、新しい情報社会の仕組みを支える応用技術などに關する研究を含んでいます。

**(3) 研究領域の研究領域運営にあたっての方針**  
現在の社会の様々な仕組みは基本的にはコンピュータやインターネットの登場以前に固まったものであります。情報技術の登場はこれらを根本的に変革する可能性を持っています。特に大規模データの適切な処理は人間の能力を超えるものであり、社会の仕組みをより良くする可能性が大きな分野といえます。大規模データを処理したり取り出しやすくなることにより、従来ではなしえなかったような新しい仕組みを実現し、それによって社会を効率化したり現状の問題点を解決したり、あるいは人間の知的作業の質や量を向上させたりすることが可能となります。  
本領域の研究課題は、そのような実社会への応用を考慮した新しい基盤技術の研究開発であり、すでに進められている大規模情報対象とするだけでなく、情報を現実世界から取り込むための手法などの提案です。ネットワークに集まっているデータから、構造や機能を特定したり、情報を読み取ったり、実社会に読み取った情報を発信したりといった、社会との関わりのある提案です。  
研究タイプとしては、3年と5年の2タイプがあります。基本的には「知の創生」の基盤技術や理論を開発するもの、5年型は実社会での活用や実用のためのアプリケーションの開発など、「情報社会」での応用を目指すものになっています。「さきがけ」の先進性を理解した、できる限りチャレンジングであり、そのために現在の社会ニーズにとらわれず、それを超える新しいニーズを創出するものも技術シーズを示した研究課題であり、今後の研究方向を創り出す核となるようなテーマが属していると思えます。



中島 秀之 研究総括



<http://www.senryaku.jst.go.jp/teian.html>

### ◆戦略事業 (JST : 提案募集専用HP)

戦略的創造研究推進事業  
CREST・さきがけ・ACT-I 研究提案募集

HOME >> 募集説明会

**募集説明会**

研究提案募集に関する各研究領域の募集説明会は全て終了しました。多数のご参加をありがとうございました。

【CREST】細胞外膜粒子に起因する生命現象の解明とその制御に向けた基盤技術の創出  
【さきがけ】生体における膜粒子の機能と制御

日時：4月18日 (火) 14:00～15:30  
場所：アルカディアホール3階 富士の館 (東京都千代田区九段北4-2-25)

当日資料：CREST「細胞外膜粒子」、さきがけ「膜粒子」

説明会の様子

平成20年度CREST「細胞」  
平成20年度「さきがけ」

【CREST】量子状態の高度な制御に基づく革新的量子技術基盤の創出  
【さきがけ】量子の状態制御と機能化  
【さきがけ】量子技術を活用した生命科学基盤の創出

＜開募会場＞ 日時：4月18日 (火) 14:00～16:20  
場所：科学技術振興機構 (JST) 東京本部3階1階ホール (東京都千代田区五番町7-K's五番町)

＜開募会場＞・・・さきがけ「量子技術を活用した生命科学基盤の創出」のみ  
日時：4月21日 (金) 13:00～14:30  
場所：TKP新大塚東口ビル3階センターホール5A (大阪府大阪市東淀川区南港1-3-12 新大塚ラーニングスクエアビル)

当日資料：CREST「量子技術」、さきがけ「量子機能」、さきがけ「量子生体」

説明会の様子

## 本日の内容

1. はじめに
2. 科研費（さらっと）
3. 戦略事業（特にさきがけ・CREST）
4. 応募のご参考
5. こぼれ話

ご清聴ありがとうございました

- ・本講演が、競争的資金の応募の一助になることを願ってやみません。